大学生とニックネーム

――ニックネームの由来とニックネームに対する感情について――

淡野将太・前田健一

University students and nicknames: The origins of nicknames and the feelings toward nicknames

Syota Tanno and Kenichi Maeda

The present study categorized nicknames of Japanese undergraduates and examined their feelings toward nicknames. Results categorized nicknames into 12 categories: "nickname related to one's name", "name with –chan" (e.g., Yuki-chan), "famous person", "name with –kun or –san" (e.g., Yuki-san), "appearance", "nickname related to one's nickname", "psychological attributes", "another reading on Kanji of one's name", "occupational role", "object", "hometown", and "unidentified". And results indicated that undergraduates felt "nickname related to one's name", "name with –chan", and "name with –kun or –san" happier than "famous person" and felt "name with –chan" happier than "appearance".

Key words: nickname, university students

問題と目的

"まつだゆきこ"という名前の女性がいるとする。彼女は，"ゆきこ"という名前を捩って"ゆきんこ"と呼ばれたり，短縮した名前に"ちゃん"を付けて"ゆきちゃん"と呼ばれたりするだろう。彼女の名前の漢字表記が，"由希子"という漢字であるとする。彼女は，名前の漢字の読みを変えて"ゆきし"と呼ばれたりするかもしれない。さらに，"松田由希子"という同姓同名の女性がいるとする。彼女は，"ゆっきー"というニックネームでは呼ばれるが，"ゆきんこ"というニックネームでは呼ばれないかもしれない。このように，ニックネームは多種多様であり，人の数だけニックネームがあると言える。

ニックネームに関する研究は，Crozier & Dimmock（1999）が小学生を対象に調査を行い，ニックネームの由来を"容姿"（appearance），"心理特性"（psychological attributes），"民族的特徴"（ethnic group），"性別的特徴"（sexual），"動物"（animal）および"名前を捩る"（nickname related to child's name）の6カテゴリーに分類している。また，Crozier & Skliopidou（2002）は成人を対象に調査を行い，ニックネームの由来を"容姿"（appearance），"心理特性"（psychological attribute），"民族的特徴"（ethnic status），"性別的特徴"（sexual），"動物"（animal），"名前を捩る"（play on name），"有名人"（famous person），"物"（object），"役職"（occupation role），"植物・食物"（plant / food），"その他"（others）

および“分類不可”（unclassified）の 12 カテゴリーに分類している。

本研究では，日本人大学生を対象に調査を行い，ニックネームの由来のカテゴリー分けを行う。先述の例にあるように，日本人の名前には漢字表記があり，Crozier（Crozier & Dimmock, 1999; Crozier & Skliopidou, 2002）の分類には見られない日本人特有のニックネームがあると考えられる。また，ニックネームの由来のカテゴリー分類に加えて，ニックネームに対する感情を測定し，大学生が各カテゴリーのニックネームに対してどのような感情を抱いているのかについても検討を行う。

方　法

対象者

調査は広島県内の大学で行った。分析対象者は大学生 141 名（女性 98 名，男性 43 名），平均年齢 20.14 歳（$SD = 0.98$）であった。

質問紙の構成

対象者は，ニックネームで呼ばれた経験について，①どのようなニックネームで呼ばれたのか，②そのニックネームの由来（i.e.,呼ばれるようになった経緯）は何か，また，③そのニックネームに対する感情（i.e., 呼ばれて嬉しいか否か）について回答した。①および②については自由記述形式，③については 3 段階評定法（嬉しい：3，どちらでもない：2，嬉しくない：1）で回答した。

結果と考察

ニックネームの由来

各対象者が回答したニックネームの個数は 1 個から最大で 8 個であった。回答から得たニックネームの総数は 422 個であった。対象者の回答に基づいてニックネームの由来のカテゴリー分けを行ったところ，“ゆきんこ”などの“名前を捩る”176 個，“ゆきちゃん”などの“ちゃん付け”121 個，“まっちゃん”などの“有名人の名前”24 個，“ゆきさん”などの“くん・さん付け”18 個，“メガネ”などの“容姿”17 個，“ゆきし様”などの“ニックネームから派生”14 個，“お姉ちゃん”などの“心理特性”13 個，“ゆきし”などの“漢字の読みを変える”7 個，“ふくぶー”などの“役職”7 個，“松ぼっくり”などの“物”4 個，“明太子”などの“出身地”2 個および“不明”19 個の 12 カテゴリーとなった（Table 1）。

Crozier（Crozier & Dimmock, 1999; Crozier & Skliopidou, 2002）の分類にないカテゴリーとして，“ちゃん付け”，“くん・さん付け”，“ニックネームから派生”および“漢字の読みを変える”が得られた。“ちゃん付け”，“くん・さん付け”および“漢字の読みを変える”は，日常生活において敬称を用い，名前の漢字表記を有する日本の文化的特徴の影響を受けていると考えられる。また，“ニックネームから派生”が確認された要因として，本研究と Crozier の研究におけるカテゴリー分けの方法論の差異が考えられる。本研究では，対象者が回答したニックネームの由来に基づいてカテゴリー分けを行った一方，Crozier では，対象者が回答したニックネームを対象者の本名との比較の中で

Table 1 ニックネームのカテゴリー，例，個数およびニックネームに対する感情

カテゴリー	ニックネームの例	個数	ニックネームに対する感情
名前を捩る	ゆきんこ	176	2.44 (0.61)
ちゃん付け	ゆきちゃん	121	2.60 (0.60)
有名人	まっちゃん	24	1.96 (0.55)
くん・さん付け	ゆきさん	18	2.56 (0.62)
容姿	メガネ	17	2.06 (0.75)
ニックネームから派生	ゆきし様	14	2.29 (0.47)
心理特性	お姉ちゃん	13	2.23 (0.73)
漢字の読みを変える	ゆきし	7	2.71 (0.49)
役職	ふくぶー	7	1.86 (0.69)
物	松ぼっくり	4	1.75 (0.50)
出身地	明太子	2	2.00 (0.00)
不明		19	2.11 (0.74)
合計		422	2.41 (0.64)

注：カッコ内は*SD*

カテゴリー分けを行っている。そのため，“ゆきし様”というニックネームは，本研究では“ニックネームから派生”に分類されたが，Crozierの研究では“名前を捩る”などの他のカテゴリーに分類される可能性がある。さらに，本研究の“出身地”は，Crozier の“民族的特徴”と同様のカテゴリーと言える。

ニックネームに対する感情

ニックネームに対する感情について，データ数の少ないカテゴリー（i.e.，“漢字の読みを変える”，“役職”，“物”および“出身地”）および“不明”を除いた7カテゴリーの一元配置分散分析（Bonferroni Collection）を行った。その結果，ニックネームに対する感情得点（F（6, 376）= 5.41, $p < .001$）は，“名前を捩る”（$M = 2.44, p < .01$），“ちゃん付け”（$M = 2.60, p < .001$）および“くん・さん付け”（$M = 2.56, p < .05$）が“有名人”（$M = 1.96$）より有意に高く，また，“ちゃん付け”（$M = 2.60$）が“容姿”（$M = 2.06, p < .05$）より有意に高かった。この結果は，大学生は，有名人に関連するニックネームと比較して，名前を捩ったニックネーム，名前にちゃんを付けたニックネームおよび名前にくんやさんを付けたニックネームで呼ばれることを嬉しいと感じること，また，容姿に関連するニックネームよりも名前にちゃんを付けたニックネームで呼ばれることを嬉しいと感じることを示している。

まとめ

本研究では，日本人大学生を対象にした調査からニックネームの由来のカテゴリー分けを行い，大学生が各カテゴリーのニックネームに対してどのような感情を抱いているのかについて検討を行った。その結果，日本人大学生のニックネームは12カテゴリーに分類された。ニックネームに対する感情得点は，“名前を捩る”，“ちゃん付け”および“くん・さん付け”が“有名人”より有意に高く，また，“ちゃん付け”が“容姿”より有意に高かった。これらのことから，大学生は，有名人に関連するニックネームと比較して，名前を捩ったニックネーム，名前にちゃんを付けたニックネームおよび名前にくんやさんを付けたニックネームで呼ばれることを嬉しいと感じること，また，容

姿に関連するニックネームよりも名前にちゃんを付けたニックネームで呼ばれることを嬉しいと感じることが明らかになった。

引用文献

Crozier, W. R., & Dimmock, P. S. (1999). Name-calling and nicknames in a sample of primary school children. *British Journal of Educational Psychology*, **69**, 505-516.

Crozier, W. R., & Skliopidou, E. (2002). Adult recollections of name-calling at school. *Educational Psychology*, **22**, 113-124.